

今月の題字
鈴木大晴くん・今泉心優さん
(大間々高校 井上浦造みらい塾)
「第2回高校生まちづくりコンテスト」で
全国177校の中で最高賞を受賞。1年生の鈴木
くんは今泉さんの発表を聞いて、私たち
ももっと頑張らなければと思いました。

高校生まちづくりコンテストで
大間々高・井上浦造みらい塾が最高賞
高校生まちづくりコンテストは
全国から百七十七校が参加し、予
選を勝ち抜いた五校が決勝大会に
進み、大間々高校の「井上浦造み
らい塾」の「みどりみらいツーリ
ズム」の発表が最高賞の「観光庁
長官賞」を受賞しました。



井上浦造みらい塾は、大間々高
校の前身の大間々共立普通学校の
創立者である
井上浦造
先生の「地
域に貢献で
きる人材を
育成する」
という建学
の精神を受
け継ぎ、そ
の精神を未
来につなげ
ていくため
に自主的に
活動を続け

ている大間々高校生た
ちのグループです。
決勝大会では、みど
り市の魅力を盛り上げ
るために「わたらせ溪
谷鐵道」を利用して、
一度限りの旅行ではな
く何度でもこの町を訪
れてもらう旅行プランを提案。四季
折々の自然や、昔ながらの人情味あ
ふれる大間々町を散策する小旅行を
継続的に行う「わてツーリズム」は
少額の積み立てで気軽に継続的に旅
を楽しめるというもの。旅の魅力と
説得力ある発表が最高賞の「観光庁
長官賞」の受賞につながりました。
決勝大会で発表した1年生の今泉
心優(みゆ)さんと鈴木大晴(たい
せい)くんは、観光庁長官賞受賞の
感想で「ずっと頑張ってきたので賞
をいただき嬉しく思っています」
「今後みどり市のためにいろいろ
活動をしていきたいです」と挨拶。
大間々が「三方よし」の町として再
び注目される日が近いと思います。



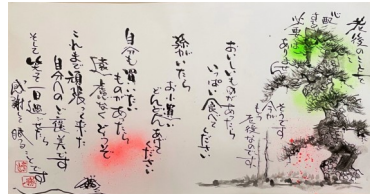
生きてるだけで意味がある
生きて困っています。あなたほど
ちたでしようか。本当はどれも
正解なのかもしれません。「生き
るとは困ること」。次々と起きる
難題を自分らしく受け止めていく
こと。ちよつとでもいいことがあ
つたり、他の人に喜んでもらえ
たら、スゴイスゴイ私はよくやつ
たと自分で自分を褒めること。七
十数年生きてやつとそこに気づい
たような気がします。人生で起き
てしまったことは誰も逃げるこ
とができないが、失って初めてわか
る幸せというものもある気がす
る。幸せとは、困難な問題に立ち
向かい、目的の向こう岸に着いた
時に喜ぶものではなく、そこへた

熊本県阿蘇山の麓の広大な敷地
に美術館を持つ大野勝彦さんは、
不慮の事故で両手を失って以来、
義手で絵や詩を書き、多くのの人
ちに感動と勇気を与え続けていま
す。大野さんは「やまびこだよ
り」という情報紙を発行してい
て、先日届いた第百六号には「生
きてるだけで意味がある」という
文章が載っていました。

「今、何か困っていることはあり
ませんか? 一、何もありません
二、あります 三、いっぱいあり
ます」
大野さん、何か困っていることはあり
ませんか? 一、何もありません
二、あります 三、いっぱいあり
ます」

どる一日一日を楽しむこ
とだろうと思っている。
そこで出逢った人と一緒
に、小さなことにも喜べ
る心の尺度が一番大切な
のかもしれない。人の優
しさや温もりを感激して
「ありがとう」と声に出
せず口の中でありがとう
を言い、感極まって何度
涙ぐんだことだろう。生
きている人はいつかはみ
んな障害者になる。まず
ここまで長生きしたこと
に感謝することが大切な
のかもしれない。」

足利屋にある大野さん
の詩には、自分を褒め
る、皆で楽しむことの喜
びが書かれ
ています。
「老後のこ
とを心配す
る必要はあ
りません
そうです今
がもう老後
なのです
おいしいも
のがあったらいっぱい食べ
てください 孫がいたらお
小遣いどんどんあげてくだ
さい 自分も買いたいもの
があったら遠慮なくどうぞ
これまで頑張ってきた自分
へのご褒美です。そして
笑って一日過ごせたら感謝
して眠ることです」



世界一小さな
定利屋
トイレ美術館



筑井孝子さん 『長澤薬師』
今月の水彩画 《331》

長澤薬師は、大間々庁舎から大間々駅に向
かう「まま通り」の途中にあります。四百年
以上に大間々の町を開いた「大間々草分け
六人衆」のひとり・長澤家が代々守り続け
ている薬師様で眼病にご利益があるといわれ
ています。半紙に「め」という字を九つ書いて
奉納する風習が受け継がれており、今年も四
月二日(日)午前九時から十時まで、「長澤
薬師め」の字奉納」を開催いたします。
筑井孝子さんの絵に描かれている紅枝垂れ桜
は八年前の春に記念植樹したものです。4月2日
には満開になっているかもしれません。

靖ちゃん日記
令和五年二月二十日(月)
奈良県宇陀市にある「善楽座」と
いう芝居小屋で全国芝居小屋会議
が開かれた。熊本の人千代座、愛
媛の因子座、香川の金丸座、兵庫
の永楽座、広島の前座などから懐
かしい仲間が集まった。大間々の
らな、なめめ子子の会の四人が参加
した。善楽座はこ水から活用していこう
という未知の芝居小屋。三十年前に黒子
の会を結成した時の熱い思いが蘇ってき
た。夜なべ談表も盛り上がり、初参加の
人と交換した名刺は十枚以上になった。
今朝は長谷寺の勤行に参加。十メー
ルの観音様の真下で三十人の僧侶と大太
鼓に合わせ般若心経を唱えた。宝生寺で
はお土産に夫婦ペアのボケ封じのお守り
を買った。そのすぐ後に、レンタカーの中
に水筒を忘れ、電車の中に大事に名刺入
れを忘れた。水筒も名刺入れも間一髪の
とこで気が付き、無事に戻った。
ボケ封じのお守りさえあれば、
ボケても何とかかしてくる。



虹の架橋 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百三十二号は令和五年四月一日(土)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん